遺族の苦しみ忘れず

命を守る闘い続ける

職場闘争と結合めざし

坑内火災抗議集会

九・二八坑内火災抗議集会は、十一年前に坑内で自然発火をひき起こした三川鉱を見すえながら三川指導部で開催され、すべての犠牲者の遺志を受けつぎ、また悲しみに負けず、会社の責任追及のため裁判闘争に立ちあがった上村孝知さん（犠牲者の一人）の遺族の苦しみをみんなの苦しみにかえ、職場の闘いと結合しながら、命を守る闘いを続けていくことを誓った。

三池労組は、三川坑内火災の当日の九月二十八日の午後五時半から、組合員や家族、遺族やCO患者ら多数を結集、三川指導部で〝九・二八坑内火災抗議集会〟を開いた。（写真は抗議集会）

降雨のため、三川鉱正門前で開く予定だったのをにわかに同指導部の会議室に変更して開催しただけに、同指導部は参加者でぎっしりと埋め尽され、災害をひき起こし続ける三井鉱山への労働者の怒りのほどをしのばせた。

集会には、本多俊之弁護士、現地CO対策会議をもって三池労組のCO闘争を支援する社会党大牟田総支部をはじめ、大牟田・荒尾両地評、あるいはその加盟単組などの代表もかけつけては、三池の命を守る闘いへの熱い連帯を示した。

この日はまた、十一年前のこの日にひき起こされた同坑内火災の犠牲者（七人だった）の一人――上村孝知さん（当時三十歳。三池労組員）の遺族（原告として、いま会社の災害責任を追及するために裁判闘争中）、妻の京子さんと実母はじめさんも参加した。特に妻の京子さんが「私たちがここまで闘ってこれたのは、皆さんをはじめ、闘いを支援してくださる全国の働く仲間の皆さんや、弁護士の諸先生のおかげです。これからもよろしくお願いします」、と感謝の言葉を述べると、改めて働く者の怒りが会場をゆすぶった。

会社、自案で強行

踏みにじられた展開要求

会社は一日を期して、三池労組の方針通り、改善が求められている新賃金展開の要求を無視し、またしても会社の方針通り、改善が求められている新賃金展開を強行、実施した。

渋田組合長は、依然として生産第一主義を改めぬ会社の姿勢を告発したあと、「責任を忘れたその態度は許せない。職場闘争と結合して、今後も命を守る闘いを続けていこう」と呼びかけ、島主婦会長は、「会社は、働く者のことなんか頭の毛ほどにも考えてはいない。前進しよう」、また社会党や全来賓を代表して、川口大牟田総支部委員長は「この先困難はさらに加わろうが、正義の要求を貫くために、また全国の労働者のためにもがんばろう」、とはげましを贈った。

特に本多弁護士が立って、上村裁判の名で呼ばれる坑内火災の資本責任を追及する裁判闘争のもつ意義と課題について述べた（本紙四面記事参照のこと）あと、原告団を代表して藤田幸次郎さん、三川指導部の田口芳博さん（仕繰）と四山指導部の森のぼるさん（同じく仕繰）の二人が決意をのべ、こうしてこの日命を守る闘いへの全参加者の決意は固まった。

命落とさない決意を

田中芳博さんの訴え要旨

私たちは災害のたびに、「二度とこのような災害は起こさない。また起こさせないぞ」と決意しながら、保安にとりくんできた。残念ながら災害は絶えず、三池大爆発以後百八人の仲間を殺された。

会社は今も保安を無視し、一日で終らない量の仕事を押しつけては残業を強制し、高温職場を野放しにして、そんなところで働く仲間たちを苦しめている。会社は社内報の〝くろだいや新聞〟で、さかんに「生産と保安は車の両輪」といっているが、実態は「生産と災害は車の両輪」となっている。

ケガをすれば、すべて本人の責任にすりかえる。今では、グループの責任にさえ変えようとしてきている。だから私たちが、会社の保安怠慢の責任を追及すべきは当然だ。

ところが残念なことに、仲間の間には、この頃人車の飛び乗り、飛び降りが目立っている。これは率直に反省すべきだ。自分たちが保安確立を要求する以上、すすんで守るべきことは守るという姿勢が大切だ。

何といっても、第一に自分たちの方から、守るべきことは積極的に守る覚悟をまず固めること。

第二に、日常の小さな保安にこそ注意を払い、常に調査し、摘発すべきことはどしどし摘発し、改善させていくこと。

第三に、ときには一斉自主点検を行なって、不安全箇所を集約し、逐次交渉しながら改善をはかっていくこと。これは、以前やられていたことだ。この機に改めて、絶対に命を落さぬ決意を固めよう。

求められる重大決意

炭労　すすむ秋の闘いの準備

秋から年末にかけての炭労の闘争は、労働者の生活の深刻化にともない例年になく重要な課題となっている。今準備がいそがれているが、資本側の動きは、期待を裏ぎりきわめてきびしさが見られるところから、炭鉱労働者にそれだけ重大な決意が求められている。

闘いの柱は、退職手当やじん肺、せき損、救護隊手当の増額に期末手当。要求は、退職手当が坑外労働者三十年勤続で一千万円、また期末手当が前期通り四十万円など。いずれも、準備の要求額そのものに不満が少くないが、よほどの団結なしには、その不満な要求獲得さえ困難さが予想されている。

本部役員の業務分担がきまりました

本部役員の業務担当分野が、次のようにきまりました。皆さんのご協力を得て、精いっぱいやりますからよろしくお願いします。

×

組合長（渋田紀生）

一、組合業務全般の統轄

二、炭労拡大中闘委員会

三、大地評単産委員長会議

四、大地評強化対策会議

五、社会党CO現地対策委員会

六、福岡労済理事

七、平野山病院理事、

書記長（蒲池哲男）

一、各部局の統轄

二、炭労戦術強化委員会

三、荒地評単産代表者会議

四、白鳩診療所理事

五、熊本労済参与

労仂担当書記次長（森田満也）

一、組織、宣伝、教育全般

二、CO患者・遺族担当

三、福利・厚生、社宅担当

四、三井三池健保理事

五、荒地評執行委員

法対部（総務・COオルグ担当＝大眉）

一、裁判に関する調査、証拠資料収集。文書保管

二、COオルグ関係実務

三、総務に関する一切の業務

以上の通りですが、ご相談ごとがございましたらご遠慮なくそれぞれの担当者まで、電話（社内電話は五二八と四七四、市内電話は五三局―三〇三三番）いただくようお願いします。

なお、敬称は省略しました。

労仂担当書記次長（前川哲明）

一、保安、労働、福祉関係

二、三池製作所・三池港務所関係

三、炭労賃金専門委員会

四、炭労＝厚生・福祉担当者会議

五、福岡地方保安協議会委員

六、大地評執行委員会

知恵のしぼりどころ

▼…熊本労金の新聞から、これは便利のよいイワシのカマボコの手作りの方法を紹介します。

×

材料（人参、ごぼう、ねぎ、パセリなど）

イワシ一・五キログラム。卵一個。酒大さじ三ぱい。片栗粉大さじ二ぱい。生しょうが汁少々。砂糖大さじ二ぱい。野菜

イワシの手作りカマボコ

作り方

①イワシは頭と内臓を除き、塩水で洗い、背ビレや皮をはいで身だけにする。②まな板の上でイワシを包丁でたたき、みじん切りにする。③すり鉢にうつしてよく擦る。④酒、砂糖、片栗粉、卵を加え、粘りが出るまでよく擦り、塩を加えてもう一度擦る。⑤野菜を小さくきざんでまぜる。⑥小判型にして油で揚げるか、蒸すか、ゆがく。

以上が作り方ですが、ただ塩を早く入れると固くなって擦りにくいそうですから、ご注意を。

×

読者の皆さん、この欄にご希望やご批判、質問などございましたら、組合本部の組織担当者までご連絡ください。電話は五七六番、または四七四番（いずれも社内電話）をご利用ください。

編集部

発行所
三池炭鉱労仂組合
大牟田市不知火町2
電話（53）3033番
（53）3034番
編集兼発行人　前川哲也
半年間1,200円　送料共